

● 奨励賞 ●

一枚の啓発チラシから…

やまぐち たいせい
山口 泰成



にんげんはったつ か がくぶ
富山大学人間発達科学部附属中学校1年(富山県)

「僕に何ができるのだろう。」新聞やテレビなどで、北方領土問題のことが話題になっているのを目にするたびに、僕は自分に問いかける。

富山駅前で行われていた北方領土返還要求運動の街頭キャンペーンの様子を見て、「僕にも下さい。」と言って自らチラシをもらったのは、小学四年生のときだった。そのとき、ありがとうと笑顔でチラシを渡されたこと、僕は今でも覚えている。下校途中のランドセルを背負っている僕にもチラシをくれたことが、北方領土問題に関心を持つきっかけとなった。そして、その一枚のチラシを帰りの電車の中で見ていると、知らないおばあさんが僕の隣に座って、「北方領土知つとるんだ、まだちいさいがに。」と言ったかと思うと、ゆっくりと昔話を始めた。おばあさんの住む黒部市は北方領土と深いかわりがあること、黒部市や入善町の漁師たちが北方領土に出稼ぎに行き、魚や昆布をたくさん取って生活していたという話だった。おばあさんは僕が下車する前に、そっと昆布をくれた。一枚のチラシから、おばあさんとの出会いがあり、そこからまた北方領土のことをほんの少し知ることができた。僕は夕食のとき、その日の出来事を家族に話した。すると、家族も北方領土はわかるが、残念ながら領土問題についてはあまり詳しくなかったのである。その後、自分で本やインターネットで調べたり、北方領土問題に関する新聞記事をスクラップしたり、街頭演説を聞き、積極的に署名にも協力した。次第に、僕は北方領土問題を身近な問題として捉えることができるようになっていった。

北方領土とは、日本固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島のことである。しかし、第二次世界大戦直後、ソ連軍によって北方領土は占領され、島に住んでいた日本人は本土に引き揚げさせられた。ソ連

崩壊後ロシアに引き継がれた現在も、不法な占拠は続いている。日本は返還を要求しているが、ロシアは実効支配を強めており、島は着々と「ロシア化」が進んでいる。

この北方領土問題について、どれだけ多くの日本国民が関心を持っているのだろうか。僕は、日本は「島国」であるために、近隣諸国との間で領土問題を抱えている当事国にもかかわらず、「領土」というものに対して意識が低いように思う。このことは富山県内でも同じことがいえるのではないだろうか。そう感じたのは、僕は今回北方領土問題についての作文を書くにあたり、これまでの作文をすべて読んだときに感じたのである。作文は、圧倒的に黒部市の中学生の作文なのである。確かに北方領土からの引き揚げ者数が最も多いのは、県内では黒部市である。北方領土問題についての情報も地元ならば当然多く、実際に元島民の方々の生の声が聞けたり、学校の授業でも多く取り上げられるからだろう。しかし僕は、富山県民である以上、地域による温度差なく北方領土問題について考えてもらえる日がくることを期待したい。なぜなら、北方領土は富山県民であった僕たちの先人が開拓した大切な領土、元島民の方々にとってかけがえのない故郷だからである。僕たち国民一人一人が、領土問題を自分の問題として考え、領土問題解決に向けて、啓発活動を推し進めていくこと、そして国民全体で国を動かしていくことが大切だと思う。

また、若い世代である僕たちが、北方領土問題について正しく理解し、率先して伝え広めていくことを実行していきたい。最後に、一人でも多く活動に賛同する仲間を増やしていけるよう、今年はずいぶん「北海道派遣団」に参加してみたいと思っている。